



# すこやか通信



## 横須賀市医師会の活動

### 「さくらネット」が開く 安心・安全な医療

横須賀共済病院 病院長 長 堀 薫



市民のみならず、突然の病気になったり、交通事故にあたり大変だ！という時に、横須賀の救急医療が実はとても頼りになっているのをご存じでしょうか。よくメディアを賑わせる「たらい回し」などは殆どなく、救急車の応需率は90%と全国でもトップクラスです。

でも、とっても怖いこともあります。当院は年間の救急車搬送が14,000台と全国3位、応需率99%ですが、半数の患者さんが来られた時点で診療情報が0！です。心肺停止の方400人も同様です。分秒を争う治療を病名、服用する薬、

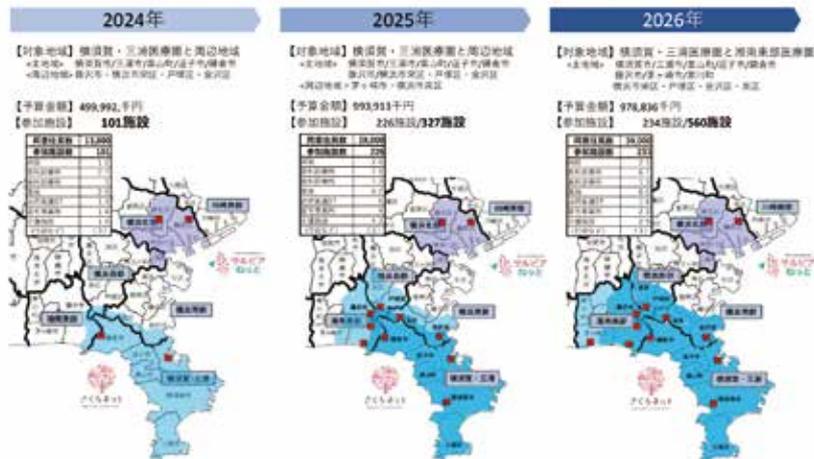


使ってはいけない薬、アレルギーなどわからないまま始めなくてはならないのです。どうしてでしょうか？ 大きな病院やクリニックなどは電子カルテで情報をデジタル化しているものの、オンプレミスといって個々の施設ごとに完結しているためにデータが共有されず、紹介する時には一度紙に落として提供しそちらの施設で入力するため、救急や災害時には他の施設の情報がないという大変困った状態なのです。

医療介護デジタルネットワークである「さくらネット」は、このような課題を一挙に解決する可能性を秘めています。おのおのの病院やクリニック、介護施設、薬局などが持つデジタル情報をEHR (Electronic Health Record) といわれるクラウド上の1か所に集め、参加する施設間はいつでもどこでも患者さんの

デジタル情報を見て診療することができます (図1)。

### 図2 さくらネット 展開計画



2024年度から鎌倉市を含む横須賀・三浦二次医療圏で始まり、3か年計画で藤沢市を含む湘南東部医療圏、金沢区、戸塚区など横浜南西部医療圏まで560施設の参加を目標とし、初期導入費用24億円を予定しています。現在、横須賀市医師会の強力なご支援をいただくなど順調に展開しており (図2)、活用されているクリニックなどは、紹介した救急患者がどういう治療を受けたか翌日わかるなどメリットを感じられています。安全な医療介護を提供する「さくらネット」の成長を、ぜひ支えていただけるようお願い申し上げます。

# 皮膚科 (3)

すずらん皮膚科クリニック 院長 松岡晃弘



## 多汗症とは

今回は多汗症についてお話しします。

汗が出るということは体温調節において大事なことですが、体温調節に必要な量を超えて汗が過剰に出てしまうことを多汗症といいます。

多汗症は続発性多汗症と原発性多汗症に分類されます。

続発性多汗症は甲状腺機能亢進症、糖尿病、更年期障害などの疾患に伴う多汗症です。続発性多汗症はまず原因疾患の治療が必要となります。

原発性多汗症は原因疾患がないにもかかわらず、交感神経から出る発汗を促す物質（アセチルコリン）が過剰に働いてしまうことにより発症します。手、腋窩（脇）、足、顔、頭部など特定の部位に過剰に汗が出ます。

原発性多汗症の治療は今までもいくつかありましたが、どこの施設でも可能なものではありませんでした。しかし近年、新しい外用療法が可能になり原発性手掌多汗症（手の多汗症）、原発性腋窩多汗症（脇の多汗症）は皮膚科であれば、ほぼどこの施設でも治療可能になりました。

### 【原発性多汗症の治療】

#### ○抗コリン外用薬

新しく可能になった外用療法になります。先ほど述べた発汗を促す物質のアセチルコリンをブロックします。手掌ではローションスプレー外用薬が、腋窩（脇）ではゲル状外用薬かワイプタイプ（ウェットティッシュ状）外用薬が保険適用となります。残念ながら足などほかの部位には適応がありません。

以下は既存の治療になります。

#### ○塩化アルミニウム外用薬

汗管（汗の出口）をふさぐ外用薬ですが保険適用がなく自由診療となります。

#### ○イオントフォレーシス

微弱な電流を流し、汗腺（汗の出るところ）の働きを弱める治療で手掌、足底に保険適用があります。

#### ○ボツリヌス毒素注射

ボツリヌス菌が作り出すボツリヌストキシンによりアセチルコリンを抑える治療で原発性腋窩多汗症に保険適用があります。

#### ○抗コリン薬内服

保険適用もあり、抗コリン作用により発汗を抑える内服薬ですが口渇、便秘、眠気、熱中症等副作用がおこりやすく細心の注意が必要となります。

#### ○胸部交感神経遮断術

手掌多汗症の重症例で有効とされていますが、代償性発汗（手掌の汗が減るかわりに他の部位の汗が増える症状）に注意が必要になります。

日常生活では、速乾性、通気性の良い衣服を着用する、十分な睡眠、緊張した時は深呼吸をする、辛いもの、カフェイン、アルコールをとり過ぎない、適度な運動などを心がけてください。

これからの暑い時期、多汗症（特に手掌、腋窩）で日常生活に支障がある方は皮膚科で相談してみてください。

# 脳神経外科 (1)

北久里浜脳神経外科 院長  
横須賀市医師会 理事

山下 晃 平



## TIA って知っていますか？

脳梗塞の始まりは突然麻痺などがでる物と警告を繰り返しながら症状がでる物があります。その警告は、一過性脳虚血発作 (=TIA) と言います。それは、体半身の麻痺や痺れ、言葉がうまくしゃべれない様な症状が一時的に出現して数分から数時間で消失するものです。症状がすぐに消えたからといって放っておいてはいけません。数日から数週間で大きな脳梗塞が訪れる可能性があるからです。

脳梗塞は、脳血管のつまる病気で脳血栓と脳塞栓に分けることができます。脳血栓は動脈硬化や高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が原因となり、血管内にアテロームという脂肪のようなものがたまり、内皮が損傷して血栓が形成されます。脳塞栓は心臓や頸動脈その他の部位で形成された血栓が脳血管に飛んできてつまる病態です。出現する病気の症状は非常に似ていますが、使う薬が全く異なるのできちんと原因を診断つけてもらうことが大切です。

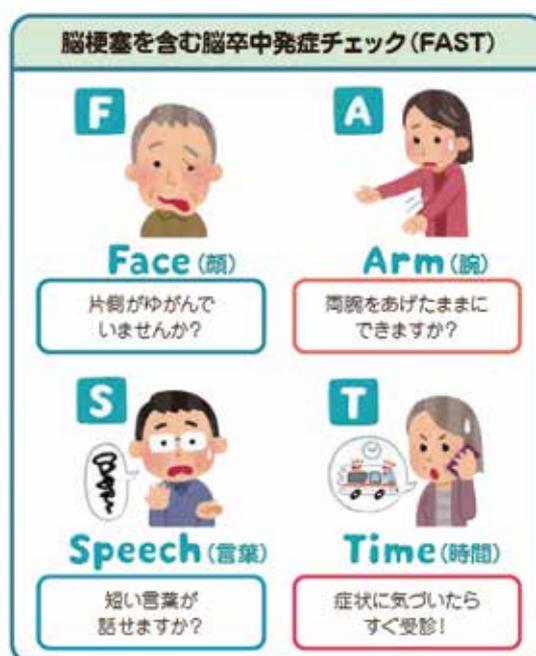
もう一つ大事な事は、麻痺や言語障害が急に出現してきたら時間が勝負になります。

4.5時間以内なら血栓溶解療法という、つままったところを溶かすt-PAと言う薬が使えます。さらに最近では、血管撮影をして太い脳動脈がつまっている場合、同時に血栓回収療法というカテーテルで血栓を取り除く治療も行うことができます。いずれにしても症状が出現したらすぐに検査を行うことが大切となります。(典型的な症状は図表参照)

脳の疾患、特に脳卒中の治療において、時間が非常に重要であることから、「Time is brain」(時は脳なり)という言葉が脳卒中治療医の間で合い言葉とされています。

脳卒中は、日本人の死亡原因の第4位で、要介護者の原因の第2位となっており、国民病とも言えます。治療法の発展により患者さんの死亡率は減ってきているものの、入院が必要になる確率は他疾患と比較しても高く、重度の障害を残してしまった場合には患者さんだけではなく、ご家族の生活にまで重大な影響を及ぼす病気です。

脳卒中にならない予防として一番大切なことは、生活習慣病のコントロール、禁煙、特に血圧管理が最も大切になります。しかし、万が一不幸にも脳梗塞症状が出てきた場合早期の診断治療が大切となります。



# 横須賀市救急医療センター



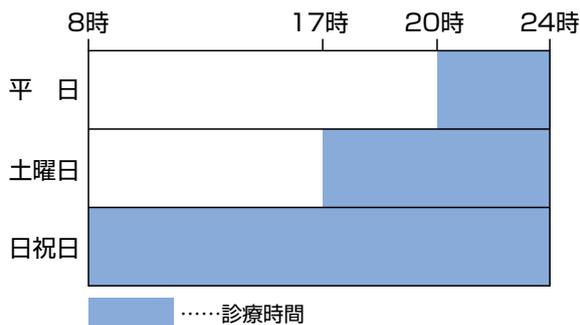
診療科目 内科・小児科・外科

〒238-0005 横須賀市新港町1-11

☎824-3001

横須賀市救急医療センターは、横須賀市医師会が管理・運営をしております。  
横須賀市医師会では、市民の皆様安心していただける  
質の高い医療を提供しております。

## 診療時間



年末年始 12月29日16時～  
1月4日8時まで24時間診療

## 案内図



横須賀市医師会は、市民の皆様により良い医療を提供できるよう

これからも努力していくつもりでありますので、

よろしくご支援をお願いいたします。

詳しいことは横須賀市医師会ホームページ

<http://www.yokosukashi-med.or.jp>

にアクセスしていただきますようお願いいたします。

横須賀市医師会  
モバイルサイト



<http://yokosukashi-med.or.jp/mobile/>

一般社団法人 横須賀市医師会

〒238-0005 横須賀市新港町1-11 TEL 046-822-0542 FAX 046-823-4534